

入出荷・検品・棚卸システム POT Check 3.0を開発し、1月より販売開始。 基幹システムのサブシステムとして、機能単位による導入が可能。

自動認識システム開発のアイニックス株式会社（東京都目黒区大橋 1-2-6 電話 03-5728-7500 代表取締役 平本純也）は、入出荷・検品・棚卸システム POT Check 3.0を開発し、1月より販売開始しました。

POT Check 3.0は、既存のERPシステムや在庫管理システムのサブシステムとしてご利用いただくことをコンセプトに開発された物流システムで、入出荷・検品・棚卸の機能を備えています。基幹システムをカスタマイズする場合に比べ、安価に素早く導入することができます。しかも、機能別に導入することができますので、スモールスタートにより現時点における問題を早期に解決することができます。その後、徐々に機能アップすることができます。

正確な入出荷管理と棚卸は、正確な在庫管理のために必要不可欠です。また、誤出荷はお客様の信用を低下させるばかりではなく、緊急出荷や返品処理など、イレギュラー処理により現場の混乱や物流コストの上昇を招きます。POT Check 3.0は、バーコードとハンディターミナルを使用することにより、正確な倉庫管理を実現すると共に業務効率を改善します。ハンディターミナルは、複数の機種をサポートしていますので、現場環境に合わせて選択できます。

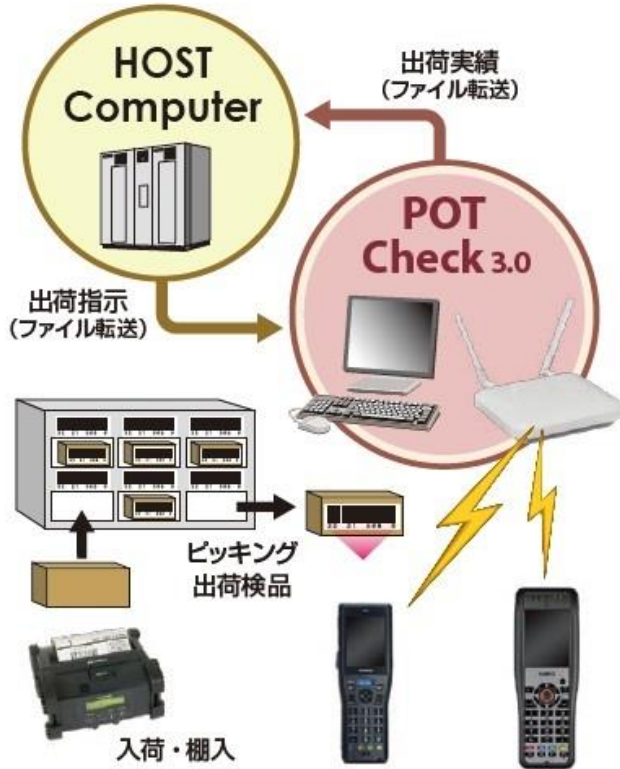
入荷作業では、基幹システムから入荷予定ファイルを受け取り、商品のバーコードを読み取ることで入荷検品をします。入荷時に現場で製品ラベルを発行することもできるため、独自の品番や属性で管理をすることができます。

出荷作業では、基幹システムから出荷指示ファイルを受け取り、ピッキングリストを出力します。ピッキングリストのバーコードと商品のバーコードを照合することで正確なピッキング作業を行うことができます。また、ピッキングリストを出力せずにハンディターミナルのみでピッキングをすることもできます。バーコードによるスキャン検品は、これまでの目視検品と比較して誤出荷を防止できるほか、過不足や混入のチェックも行うことができます。

棚卸作業は、従来の一斉棚卸の他に、ロケーション単位で棚卸を行う循環棚卸が可能です。そのため、倉庫全体の作業を停止することなく、棚卸を行うことができます。

POT Check 3.0では、PC側とハンディターミナル側で機能ごとにパッケージ化されているため、カスタマイズする場合でもその範囲が限定され、したがって、動作テストも最小化できます。これによりカスタマイズ費用を抑制し、高い品質を維持することができます。

POT Check 3.0 はオープン価格ですが、1 台のユーザライセンスと 3 台のハンディライセンスを含んだ基本セット参考価格は、180 万円（消費税別）です。そして、初年度 10 システムの受注を目指しています。



◆ POT Check 3.0 主な機能

	業務	機能
パソコン業務	入荷	入荷予定データ取込、入荷状況照会
	出荷	出荷指示データ取込、ピックアップリスト、出荷状況照会、出荷明細書、送り状
	棚卸	棚卸準備票、棚卸照会 / 更新、棚卸実績データ出力
	管理	入出荷履歴照会、月次更新、移動伝票入力、在庫調整入力
	マスタ	各種マスタ、品目ラベル、ロケーションラベル

	業務
ハンディ業務	入荷処理（ラベル発行）
	ピックアップ
	出荷検品
	棚卸処理
	棚入・ロケ移動

◆ システムフロー

